

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・描図

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

昨年よりやや論述量が減少したが、I～IVのすべての大問がA・B分けとなり、実質8題分の内容となったため、全体としては昨年並みであった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空欄補充 選択 記述 論述	呼吸 遺伝子発現	生物	問3 酵素のはたらきを確かめる実験なので、加熱以外に透析や、pHの変化を答えてもよいだろう。	やや難
II	空欄補充 記述 描図	遺伝 発生	生物	問4 X病患者に共通しているのは、7番と8番のマイクロサテライトである。したがって、X病にかかわる遺伝子は7番と8番の間以外にも、6番と7番の間、もしくは8番と9番の間に存在している可能性がある。	やや難
III	空欄補充 選択 論述	動物の環境応答 植物の環境応答	生物	問5 極性移動に関わる仕組みが問われているので、排出輸送体の局在について述べる必要がある。	標準
IV	空欄補充 選択 記述 論述	進化 個体群	生物	問4 葉緑体をもたない真核生物の細胞内に、葉緑体をもつ真核生物が共生したことを説明する。	やや難

※ 難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・さまざまな分野から出題されるので、全分野について教科書を一通り復習しておこう。
- ・文章読解力を高め、実験問題やデータ考察問題を論理的に解析する能力を養い、論述のポイントを見抜く力を高めよう。
- ・問題の分量が多いので、問題文からポイントを見つけて論述解答を手早くまとめるための演習を積んでおこう。
- ・遺伝子と遺伝計算は出題頻度が高い。また、生態と進化は両方とも出題される頻度が高い。注意して、学習しておこう。